

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b>30</b>

事業所番号	1471901429
法人名	社会福祉法人 湘南福祉協会
事業所名	グループホーム ころ
訪問調査日	平成 20 年 11 月 6 日
評価確定日	平成 20 年 12 月 22 日
評価機関名	社会福祉法人 神奈川県社会福祉協議会

### ○項目番号について

外部評価は30項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### ○記入方法

[取り組みの事実]  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]  
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]  
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年12月22日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1471901429
法人名	社会福祉法人 湘南福祉協会
事業所名	グループホーム こころ
所在地	神奈川県横須賀市追浜東町1-32 (電話) 046-867-3531

評価機関名	社会福祉法人 神奈川県社会福祉協議会		
所在地	神奈川県横浜市神奈川区沢渡4-2		
訪問調査日	平成20年11月6日	評価確定日	平成20年12月22日

## 【情報提供票より】(平成20年9月22日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成 14年 5月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	8 人
職員数	10 人	常勤	2人, 非常勤 8人, 常勤換算 5.8人

## (2)建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	2階建ての	2階 ~	2階部分

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000 円	その他の経費(月額)	31,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	200,000 円	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	420 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

## (4)利用者の概要(平成20年9月22日現在)

利用者人数	8名	男性	0名	女性	8名	
要介護1	3名	要介護2	0名			
要介護3	4名	要介護4	1名			
要介護5	0名	要支援2	0名			
年齢	平均	90歳	最低	84歳	最高	98歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	総合病院 湘南病院
---------	-----------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

◆京浜急行線追浜駅から徒歩20分の距離で、緑が豊かな環境に位置している。居間は天窓があり明るくて広く、トイレや洗面台も広く車椅子対応である。
◆「いつも笑顔でお手伝いいたします。①人としての尊厳を守ります。②個人の意見を尊重します。③安心して日常生活を送っていただけるようお手伝いをいたします。」という事業所独自の理念に基づき、日々の生活を支援している。
◆四季折々の行事を取り入れ、家族も一緒に参加したり、ボランティアの協力を得て、取り組んでいる。
◆医療面では、協力医療機関となっている同一法人の総合病院と連携をとり、利用者の健康管理に努めている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価で改善課題はなかったが、災害時の夜間訓練について地域との連携を検討している。前回の評価結果は職員・家族に周知し、運営推進会議にも報告している。また、玄関に評価結果を置き、誰でも見られるようにしている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者が自己評価及び外部評価を実施する意義を職員会議で職員に周知して、全職員が自己評価に参加して、管理者がまとめた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	事業所単独で開催する運営推進会議では、家族、町内会福祉担当者、事業所のセンター長・管理者が参加し、3ヶ月ごとに開催している。追浜地区内の事業所合同で開催の運営推進会議には市担当課と地域包括支援センターが参加している。会議では運営・行事・事故・外部評価等について報告し、意見交換を行っており、今後も継続してサービスの向上に役立てて行く意向である。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	苦情処理について運営規程に明記し、苦情受付先として第三者委員も併せて明記したものを玄関に掲示している。家族の来訪時には要望等を聞き、家族が集まる敬老会や花見等の行事の際にも要望等を聞いている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入している。地域の夏祭りには事業所にお神輿が立ち寄ったり、ボランティアが訪れて絵手紙・折り紙・散歩の協力を得ている。近隣のグループホームとはおすそ分けを交換している。訪問調査日には中学生が総合学習で訪れていた。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の共通理念に加え、平成18年に改定した「いつも笑顔でお手伝いいたします。①人としての尊厳を守ります。②個人の意見を尊重します。③安心して日常生活を送っていただけるようにお手伝いをいたします。」という事業所独自の理念に基づき、日々のサービス提供を行っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は新人研修で説明するとともに、玄関及び職員室に掲示している。また、毎朝のミーティングや職員会議で話し合いの機会を持ち、理念の共有をはかり、介護の現場ではいつも笑顔で利用者へ接し、利用者の意志を尊重して、日々のサービス提供を行っている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入している。地域の夏祭りには事業所にお神輿が立ち寄り、ボランティアが訪れて絵手紙・折り紙・散歩の協力を得ている。近隣のグループホームとはおすそ分けを交換している。訪問調査日には中学生が総合学習で訪れていた。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者が自己評価及び外部評価を実施する意義を職員会議で職員に周知して、全職員が自己評価に参加している。前回の外部評価で改善課題はなかったが、災害時の夜間訓練について地域との連携を検討している。前回の評価結果は職員・家族に周知し、運営推進会議にも報告している。玄関に評価結果を置き、誰でも見られるようにしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所単独で開催する運営推進会議では、家族、町内会福祉担当者、事業所のセンター長・管理者が参加し、3ヶ月ごとに開催している。追浜地区内の事業所合同で開催の運営推進会議には市担当課と地域包括支援センターが参加している。会議では運営・行事・事故・外部評価等について報告し、意見交換を行っており、今後も継続してサービスの向上に役立てて行く意向である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者とは、事業の更新・監査や利用者情報など日常的に連絡・相談を行っている。生活保護受給の利用者がいるので、市生活福祉課とも連絡を密にしている。また、市の高齢者虐待研修、保健所の衛生研修などに参加している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の来訪時に利用者の暮らしぶりや健康状態を報告し、突発的な病気やケガ等は電話で知らせている。毎月の請求書送付時に、利用者ごとの近況や行事等を報告している。金銭管理は預かり金方式で金銭出納明細書を添付し家族に送付しており、金銭を預かる時に出納確認印をもらい、預り証を発行している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情処理について運営規程に明記し、苦情受付先として第三者委員も併せて明記したものを玄関に掲示している。家族の来訪時には要望等を聞き、家族が集まる敬老会や花見等の行事の際にも要望等を聞いている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の定着をはかるために、職員のストレスの軽減に配慮したり、夜勤専任者の配置を行っている。職員が交代する時は引継ぎを十分に行い、利用者への影響を少なくするよう配慮している。退職後に事業所に訪問してもらうこともある。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修で、管理者によるOJTを行っている。現任研修では、横須賀市認知症対応型共同生活介護事業者連絡協議会主催の認知症介護・身体ケア・入浴介助を受講している。法人研修では、倫理・法令遵守・虐待防止・感染症対策を実施している。受講者はミーティングで報告し、報告書を回覧して共有をはかっている。研修参加は勤務扱いとし、参加費と交通費は事業所で負担している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	横須賀市認知症対応型共同生活介護事業者連絡協議会に加入し、研修・意見交換・行政報告等を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。地域の事業所とは管理者が相互訪問し、意見交換を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(〇印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<input type="checkbox"/> 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学を随時受け入れており、利用希望者、家族に事業所を見学してもらい、雰囲気を覚えてもらっている。入居面談の際に「入居時のご案内」に基づき、入居準備や事業所での暮らしについて説明を行っている。病院・療養施設からの利用希望者には、ケースワーカーや医師と話し合う。入居後、馴染み落ちるまでは家族に訪問の協力を依頼している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<input type="checkbox"/> 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	おやつ作り・洗濯物たたみなど、その人ができることを職員と一緒にやっている。職員は利用者からこの土地の風習や料理を教わり、日々の暮らしに生かしている。行事には家族も参加して、喜怒哀楽を共にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<input type="checkbox"/> 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者、家族の意向や要望は、センター方式のアセスメントシートに記入し、できること・できないことを分析し把握している。また、利用者の日々の行動を観察し、毎日のミーティングで話し合い全職員で共有している。意向の表出が困難な利用者には、声かけや日々の行動の観察から意向の把握を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<input type="checkbox"/> チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族の意向を聞き、計画作成担当者である管理者と職員でカンファレンスを行い、介護計画を作成している。認知症に関しては協力医療機関の医師の支援を受けている。介護計画は、家族に説明し同意をもらっている。		
16	37	<input type="checkbox"/> 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状況が安定している利用者には、6ヶ月ごとにカンファレンスを行い、介護計画の見直しを行っている。状況に変化があった場合には、随時カンファレンスを開催して介護計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	協力医療機関である同一法人の総合病院から定期的に訪問診療を受けており、認知症についても総合病院の支援がある。利用者が入院した場合は、医療機関や家族と連絡をとり早期退院に向けて支援している。同じ建物内にある同一法人のデイサービスでのコーラス等のボランティアによる行事の際には、本事業所の利用者も参加して交流している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、入居前の医師か事業所と契約している協力医療機関を選択することができる。協力医療機関の内科医は月2回、歯科医は月1回の往診があり、必要に応じて皮膚科の往診もある。入居前の医師にかかる場合には家族が同行し、診察内容は家族から聞いて、事業所でも把握している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者、家族から要望があれば看取りに取り組んでいくことを職員間で話し合っている。利用者、家族から看取りの要望があれば、家族と医師と話し合いながら対応する方針である。現在は重度や終末期の方はいないが、以前に家族の要望で、かかりつけ医と連携をとり入院する直前まで支援したことがある。事業所の近くにある医療機関に支援を受けられるよう承諾を得ている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取り扱いについては、利用者・家族及び職員に、それぞれ契約時・採用時に説明し、同意書・誓約書を取り交わしている。プライバシー保護については新人研修で周知徹底している。重要書類は倉庫と事務室の書庫に施錠保管している。訪問調査時の職員の態度、言葉遣い、トイレ誘導は穏やかな対応であった。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの生活ペースを尊重している。起床・就寝・食事・入浴・レクリエーションも、利用者それぞれのペースを尊重している。訪問調査時には、遅めに朝食をとる人や通院後に昼食をとる人、昼食後に下膳を手伝う人、居室で休む人、テレビを見る人など、それぞれ自由に過ごしていた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は近隣の生協・魚屋から旬のものを調達し、時には季節の行事食や外食も取り入れている。調理や片付けは一人ひとりの出来ることを手伝ってもらっている。利用者と職員は同席して一緒に食事をとり、職員はさりげない介助を行っている。嚥下の状態にあわせて、おかゆ・刻み食・とろみ食を提供している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回の入浴を基本として、希望すれば連日の入浴、入浴時間の変更にも対応している。浴槽の湯はその都度入れ替えており、一人ひとりの体調やその日の気分にあわせて、シャワー浴や清拭の場合もあり柔軟に対応している。入浴を好まない人にはタイミングを見計らい入浴をすすめている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の張り合いある生活のため、一人ひとり能力に応じて、おやつ作り・下膳・テーブル拭き・洗濯物たたみ等の役割を行ってもらっている。歌唱や散歩を率先して指導する利用者もいる。地元のボランティアが訪れて絵手紙・折り紙を作成し、居間に飾り楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は職員が付き添い、買い物や散歩に出かけている。ファミリーレストランでの外食、四季折々の花見・七夕・お月見・クリスマス会等の行事を家族と一緒に楽しんでおり、複数の家族が行事に参加している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関前の道路は急坂で交通量が多く、利用者、家族の了解を得て施錠している。居室の扉に鍵があるが、施錠は利用者の意志にまかせている。居室の鍵は万が一のために居室外から開けられる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	事業所が所在する追浜ケアセンター(デイサービス・生活支援ハウス・在宅介護支援センター)として、合同で年2回消防避難訓練を実施している。消防署には避難訓練・点検で指導を受けている。今後は夜間訓練に加え、町内会にも働きかけて合同訓練を実施する予定である。玄関脇の倉庫には非常用食料・飲料水を3日分備蓄している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの摂食量と水分摂取量を毎食後チェックシートに記録している。栄養バランスやカロリーチェックは、同一法人の総合病院の管理栄養士にチェックしてもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の家具や照明は一般家庭と同じものを使用している。居間には小上がりの畳敷きもあり広く、天窓があり明るく、清潔である。利用者の作品である季節感のある折り紙・絵手紙が展示されている。トイレや洗面台は広く、車椅子対応である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた愛着のある家具などの持ち込みを勧めている。居室は和室と洋室があり、収納と洗面所を備え付けている。居室には馴染みの整理だんす・茶箆箆・テレビ・人形・写真・位牌などが持ち込まれ、これまでの生活習慣にあわせて配置し、居心地よく過ごせるようにしている。		



# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム ころろ
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	横須賀市追浜東町1-32
記入者名 (管理者)	増田 慶子
記入日	平成 20年 9月 22日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念は職員室に掲示している。 [いつも笑顔でお手伝いいたします。] ① 人としての尊厳を守ります。 ② 個人の意見を尊重します。 ③ 安心して日常生活を送っていただけるようお手伝いをいたします。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の共有は出来ている。朝の引継ぎや職員会議時に確認し、その人らしさについて話し合っている。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族をお誘いをしての花見や敬老会、面会に来ていただいたときに知っていただいている。町内のお祭りの参加でお神輿の立ち寄ってもらったり、近隣の友人たちの訪問がある。学生の職場体験の受入れを行ったり、近隣のボランティアによる散歩や折り紙等を行ってもらっている。運営推進会議が行われるようになってからは町内会との係わりが強くなっている。	○ 家族会の検討
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	入居者の友人や宗教関係の方の立ち寄りや小学生があそびに来ている。気候が良い時には玄関先や散歩で入居者と共に挨拶をしたりしている。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入っている。祭りには必ずお神輿に寄ってもらい、ご祝儀を渡してもらっている。町内会の公園の散歩時にお花をもらったり、話しをしたりしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	現在行われていない。利用者の高齢化や認知症の進みやA/DLの低下に伴い検討が必要である。	○	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	自己評価をすることで再確認や職員間での意識の統一が図られている。		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	運営推進会議は昨年度までは地区別会議でした。今年度からは3ヶ月に1度事業所単位で会議を行い、6ヶ月に1度地区別単位での事業所会議が行われている。取組みや活動報告、外部評価についても説明等を行なっている。事業所単位での会議はグループホームのことで知らうことがメインとなっている。火災訓練については民生委員から協力をしたいとの申し出もあった。		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	市認知症対応型共同生活介護連絡協議会や研修の参加時や、家族との関わりの少ない方の更新手続き等に行ったときに会う機会があり取り組んでいる。また、今年1月には監査を受けている。		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	外部での研修及び当センター内での研修を受けている。		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	外部での研修及び当センター内での研修を受けている。また、研修報告を行い、ミーティング時に話し合っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	行っている。後日疑問点等あれば連絡をもらったり、面会時に聞いて理解・納得がいくまで説明を行うように努力している。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員が聞いた場合は必ず管理者に報告している。また、そのような話があるときには1対1での関わりを大事にしている。買い物や食事についてが時々聞かれ、外出の機会を増やす努力や食事のメニューの工夫をしている。味付けについては職員全員で注意しあっている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の健康状態や金銭については面会時に行っている。家族の面会状況は個々で違っているのであわせている。職員の異動については、大きな変化がある場合のみ毎月の請求書と一緒に入れているあいさつ文に盛り込んだことがある。	○ 家族会の検討
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者や職員は常に聞ける体制を持っている。事業所運営推進会議のメンバーに家族代表者が入っている。	○ 家族会の検討
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者の意見等については、管理者が職員会議の中で報告している。職員は必要あれば直接運営者に会い、意見等話しが出来る機会を設けることが可能である。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	必要に応じて勤務体制の調整を行う努力をしている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	福祉全体の課題である職員の確保について大きな問題であり、離職についても最小限にとどめるように努力している。また、職員間の話し合いが行われている。	○ 職員間のチームワークを今まで以上に良くしていくことで補ってゆきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部、内部共に研修を受けている。また、就職時には無資格であった者が働きながら訪問介護2級の資格を取ったり、訪問介護2級から介護福祉士の資格を有した。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>研修や勉強会に参加したりすることで交流を図っている。近隣のグループホームとの交流は現在殆んどない。</p>	<p>○ 地域別運営推進会議で課題としたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>身体状況に応じては長期療養等を行っている。運営者の病院での医療労災が受けられ、パート職員でも無料で外来受診ができる。</p>	<p>○ 職員のストレスは少しでも軽減できるように、職場環境から改善して行きたい。職員の確保の充実が大きな課題である。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>年2回の理事長や事務長の訪問。施設長会議や部長との話し合いで状況把握が出来ている。 年始、花見、納涼会などに参加することで運営者に会い、話ができる。</p>	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>自宅訪問や入院先訪問等を行っている。場合によっては1対1での話す機会を設ける。本人が十分な訴えが出来ない時には、家族や関係者の話を聞く。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>話を聴くようにし、連絡を密に取っている。また、不安等があれば必ず連絡をしてほしいことを説明している。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今までの生活と大きく変化しないように努力している。ボランティアの利用。車椅子の確保。食事内容等の検討。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学できる方はしていただき様子を見ていただいている。入所して間もない時には家族の訪問を多くしていただき、いつでもあえるという安心感を持っていただく。上記のことなどを家族と相談しながら行っている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に食器を拭いたり、洗濯物を畳んだりお手伝いをしていただきながら、会話を楽しんでいる。利用者の関心のあることや誇りにしていることで会話が弾んでいる。戦争や地震の話、追浜周辺、生まれ育った土地の話などを聴かしてもらっている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族と職員が話しが出来るような場面を少しでももてるように努力している。また、家族側(病気や来れない理由等)の問題等があった場合には話しを聴く体制をとっている。	○	家族会の検討
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人の気持ちの代弁をしたりや絵手紙を送ったりしている。電話が来たときには本人と話してもらっている。	○	家族会の検討
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人の来所を快く受け入れ、帰りの際には又の来所をお願いしている。宗教関係者や依然お世話になった民生委員の来所の受入れ。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員は個人の意見を尊重するように努めている。全員で出来るレクリエーションを行うようにしても嫌がった場合は個別に職員が対応するようにしている。折り合いが付かない話しは職員が調整を行ってまとめている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	昨年の評価以後退所者がいないため行われていない。今後、必要な方には行う努力をしたい。	○	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	朝食にパン食にしたり、養命酒を飲んでいただいたり、麺類が苦手な方はご飯に代えたりしている。入浴の嫌いな方や今入りたくない方は時間・日などの変更やご機嫌を見ながら入ってもらっている。意向に沿えるように職員間での話し合いを行っている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報としては家族、ケアマネージャー、サービス事業担当者から聞く。本人からの会話をすることでわかることも多い。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	顔色、表情、言動、衣服等の身だしなみ、ADL、水分量や食事量などを客観的に観察する。引継ぎやミーティングで話し合い、緊急時には管理者への報告がなされる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	出来るだけ沿うように話し合い、反映させている。食事の嗜好面や生活習慣が主である。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月に1回か状態の変化がある場合に見直している。対応できない変化については、都度話し合い計画を立てている。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や業務日誌が一番の情報源となっている。職員間での共有化が出来る。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	デイサービスのコーラスを聴きに参加。生活支援ハウスの廊下を通してデイサービスや公園に行くため、入居者の方から良く声かけをしてもらっている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員の訪問、ボランティアによる散歩や絵手紙・折り紙・レクリエーション、消防訓練参加、歯科大生・社会福祉士の研修受入れ、中学生の体験学習受入れを行っている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	散歩のボランティアを利用している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現入居者1名は、地域包括支援センターからの相談を受けて入所をしてる。また、空き状況等の問い合わせを受けたりして、情報交換を行っている。地域別運営推進会議時には参加している。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前よりかかりつけ医の訪問診療又は受診の受入れを行っている。また、協力医療機関の院長の訪問診療を月1回受けしている。		



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医療機関の院長が行っている。必要に応じては精神科への紹介受け、受診や診断、治療が受けられる。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	管理者が看護師である。場合によっては協力医療機関の看護師や法人内の訪問看護師と相談が出来る。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院から退院まで早期の退院に向けて、主治医・病棟看護師長や看護師・医療ケースワーカーとの連携を取っている。入院時は管理者だけではなく、職員も出来る限りで面会を行っている。	○	医療機関との連携よりも家族との調整が難しい。家族と管理者や職員の信頼関係が大きく左右する場合が多い。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	早い時期からの連絡を行い、話し合っている。共有できていると思われる。	○	本人や家族の不安は大きいと思われ、相談等話す機会を多く持ちたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	現在、重度や終末期の方はいない。以前寝たきりになった方については、家族の意向を聞いて主治医との連携を図り、職員間では話し合いを繰り返しながら、入院ぎりぎりまで支援したケースがある。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	昨年からの退所者はいないが、本人や家族・関係者へは話し合いや情報交換は充分すぎるぐらいに行いたいと思っている。	○	入所している時から日常的な情報交換等については話しをするよう努力している。また、個々に特別養護老人ホームなどに入所申し込みなどの説明や資料をお渡ししている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人記録等は利用者の目に付かないように職員室に保管している。笑顔で接し、個々にあった尊重した言葉使いをする様に心掛けている。	○ 言葉掛けや対応に問題があるようであれば注意を促している。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の希望を必ず聞くようにし、無理強いしないように心掛けている。また、自分でなかなか決められない方には、職員が1対1で対応して支援をする努力をしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴に関しては職員の都合を優先し午前中から入っていただいたり、週2回の入浴回数や曜日の設定を決めている。しかし、本人の希望があれば、日時の変更をしている。また、散歩等で汗をかかれた時には予定外でも入浴していただいている。食事時間についても本人の意思で後にしたいときには変更をしている。日中でもベッドに横になり休みたい方はなってもらっている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	2ヶ月に1回はボランティアの美容院の訪問があり、希望者がヘアカットを行っている。また、家族と行きつけの美容院に行かれる方もいる。各居室の洗面所には鏡があり、個々で身だしなみができるようにしており、化粧品についても本人たちが使いたいものを置いている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は毎日ではないが、作るものによっては一緒に行っている。また、片付けは毎日一緒に行っている。食器拭きは決まった方ではあるが、自発的に行っている。しかし、無理強いはないで本人の意思で行っていただいている。箸や湯のみは本人のものを使用している。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつは10時と15時に出す以外は、本人が買ったり、家族が持ってこられたものを居室内で召し上がっている。ただ、その方の状態や状況に応じては、職員室で預かり希望された時や声掛けをして都度渡している。本人と家族の希望で養命酒を就寝前に飲まれている方がいる。ヨーグルトの苦手な方は変更したり、ティータイムでは飲みたいものを聞いている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個人個人の排泄パターンを知り、声掛けによるトイレ誘導を行っているが、出来るだけ本人の意思で行くように見守りも重視している。トイレ介助時に恐縮する方がいるので、排泄が大切なことであるなどを説明し、気持ちよく接するように心掛けている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には週2回。入浴日はホーム側で曜日を決めている。しかし、外出、体調、気分に合わせて変動している。入浴の嫌いな方の場合、回数や曜日を決めずに声掛けでタイミングを見計らいながら行っている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	基本的には本人に合わせている。昼寝の希望があればいただいている。夜は無理にしないで、居間に1人になっても一緒に話をしたり、飲み物を飲んだり、見たいテレビが終わるまで見守っている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ボランティアによる絵手紙・折り紙・散歩・散髪。職員との散歩や買い物等。季節感のある食事の工夫。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を管理できる方又は持っていたい方は所持している。(現在4名の方が所持している。)		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い時の散歩(近隣の公園)、ベランダやホームの入り口のベンチに座ったりしているが、無理強いしないで個別対応を行うように努力している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	花見、食事会、遠いところへの見学(例:ヴェルレーニー公園)	○	家族との交流する機会が増えていないため、今後検討したい。家族会の開催の検討が大きなポイントになると思われる。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を以前は持っていた方がいたり、絵手紙を書いた時には家族等に出している方もいる。電話をかけたい方には職員がダイヤルをして替っている。利用者全員が自分からダイヤルが出来ない。	
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	馴染みの方たちに拒むことなく受け入れている。また、訪問時には居室で一緒にお茶を飲みながら話をしていただいたりしている。	
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>			
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会には職員も参加している。また、研修資料等をいつでも見られるようにしている。利用者の身体拘束は全く行ったことがない。今後必要であれば本人、家族、職員間での話し合いを行いたい。また、「グループホームにおける身体拘束等の行動制限についての取扱要領」を取り交わす。	
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関はオートロックとなっている。ホームの目の前の坂は交通量が多く、車のスピードも速いため、家族の了解の元かけている。しかし、空気の入替えやベンチに座るときには玄関を開放することがある。居室の鍵は利用者が掛けるが、職員は掛けることがない。	
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	ホーム内はワンフロアなので見守りが行きやすくなっている。部屋やトイレに入る時には声掛けやノックをして入っている。部屋の入り口を空けておきたい方については、希望に沿っている。	
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ハサミ、爪切りなどを使用できたり、危険がないと判断した場合は居室に置いている。しかし、毎日の掃除などの居室訪問時には確認を行っている。(アズノールなどの軟膏類やトイレクイックルも含まれる。)	
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	誤嚥の危険のある方には、水分などトロミをつけている。麺類やパン、海苔巻きなどは個々に合わせた形態に切ったり、刻んだりしている。ガスの元栓を必ず締めたり、熱い物が台所などにあって側を離れる時には、手の届かないところに置く。転倒では見守りを行い、ベッドや浴室の手摺りを増やしたりしている。薬を手の届くところには置かない。(職員室に保管)洗剤等については鍵のかかる洗濯室に置いている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	職員は救急講習会に順次参加している。	○	施設としては定期的な訓練を行っていないので、今後は行う方向で検討したい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防訓練を利用者と共に受けている。今年度は当ホームが主体で避難訓練の予定である。(10月24日)事業所別運営推進会議では議題としても取り扱っていて、報告を行っている。	○	現在、隣の自立施設(生活支援ハウス)との協力の元で夜間想定避難訓練を計画中である。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	説明は行っている。現在、ポータブルトイレの使用・ベッド柵の2点使用や浴室の手摺りの増設や玄関の施錠について行っている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調の変化については、気がついた時点でバイタルサインのチェックを行う。職員間での情報の共有し、状態に応じては管理者に報告を行う。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人別調剤明細を保管し、いつでも見れるようにしている。また、新しく服用する薬については、業務日誌にも記載し、調剤明細を確認しての申し送りを行っている。服薬の支援としては、自分で飲める方は手渡しをして飲むのを確認する。介助が必要な方は封を切ったり、口の中に入れて、手に錠剤を乗せたりしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	野菜中心の食事に心掛け、10時のおやつにはヨーグルト+バナナを食べていただいている。紙モップで朝の掃除をしていただいたり、体操をしたりと身体を動かしていただける工夫をしている。水分を取るような工夫としては、ティータイム時にコーヒーやジュース等変化をつけている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後の口腔ケアは毎食後に、個人の能力に応じて声掛けや介助や見守りを行っている。また、就寝時は義歯を預かれる方は洗浄剤を入れて保管したり、1人の方は自己管理してコップに洗浄剤を入れて保管している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の身体状況などに合わせて量の調整を行っている。また、メニュー上バランスを考慮し、野菜中心に考えている。刻み食、お粥、トロミ食や水分のトロミをつけたりしている。水分量が不足している方には、別の飲み物に変更し1日の量の確保をするように調整している。食事量や水分量はチェックし、記録している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルがある。手洗いやうがいの励行を行っている。入居者、職員と予防注射を受けている。職員の研修の参加。今までにノロウイルスの感染と疥癬の疑いの方がいた。保健所への報告や取り決めについて充分に行った。	○	管理者は研修に参加する機会が多くあるので、出来る限り職員の参加を今後も促していきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は仕入れた日を記入し、生鮮食品は冷凍にしている。また、生鮮食品の十分な加熱と調理したら出来るだけ早く食すようにしている。まな板、布きん、食器かご等の除菌や日光消毒。食器類や鍋やボール・ざる等は乾いたのを確認してからしまう。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前にはベンチを置き、近隣の方達が散歩などの途中に休憩されたりしている。玄関前には季節の花を置いている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	今に観葉植物を置いている。また、花を飾ったりしている。ボランティアの方と折った季節感のある折り紙や絵手紙の展示をしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にはフローリングになっている部分と段差のある畳の部分がある。居間にはソファが置かれ、各々自由に使用できる。各居室で利用者同士が談話をされている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた家具、寝具、ぬいぐるみ、家族の写真、入居前からの宗教の品々、位牌等、座りなれた座椅子、アルバム等持って来られている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	天候の良い日や掃除の時には窓を開放し空気の入替えを行う。空調設備は気温や状況に応じての調整に心がけ、個人の体調や感覚に合わせて行う必要があれば、衣服等の調整もあわせて行っている。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	畳の部屋の上り口の手摺りがあり、掴まってあがれるようになっている。フローリングの部屋は2部屋あり車椅子の方も利用できるようになっている。廊下全体に手摺りがあり、歩行不安定な方も掴まってホーム内は移動できている。トイレ内の手摺りは座ったり、立ったりが自力でも出来るようになっている。	○	退院された方が入院前よりも身体機能が落ちた時に、家具やベッド等の配置を替え少しでも自立した生活が送れるように配慮した。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	わかる力の工夫としては、個々の力によって食器拭き、食事用マット拭き、花の水やり、洗濯物の畳み、掃除など手伝っていただいている範囲や仕方が異なっている。見守りと声掛けの工夫(話す姿勢や声のトーン、プライバシーを人前で話さない、分からなくなりそうな時のアドバイスなど)。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先のベンチと鉢植えがあり、近隣の方や隣の支援ハウスの方と話す機会がある。テラスにはベンチと鉢植えがあり、季節の良い時には外気浴やお茶を飲むことがある。花の水やり。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

職員不足や入れ代わりが多い中で、利用者の不安が最小限になるように日々の話しかけや支援に注意を払っている。

夜間火災発生想定避難訓練を今年度中に行う予定。(現在、追浜ケアセンター内での施設長間での話し合い中である。)

今年度中の家族会の発足。